一般質問 11人

厳しく町政を問う

行財政改革 徴収体制について

答弁：待ちから攻めの徴収

堤 久美子 議員

堤 商売人にとってはきめ細かなサービスと顧客管理は必須条件、税の滞納額の徴収体制についてどのようにされているか。

町長 交付税あるいは補助金等がカットされた分の税源移譲が生きてくるように徴収体制の強化を図っている。

税務課長 6人の職員と嘱託2人採用し、19年度は待ちの徴収から攻めの徴収ということで滞納整理に当たっている。

▲ボランティアによる昼食はおいしい！
（高浜市の宅老・宅児所併設のようす）

各地域の中に宅老所を

答弁：検討課題とする

堤 高浜市では、実に無駄のない経営手法で宅老所が運営されているが、高齢化率30％台の地域に宅老所を設ける考えは。

町長 地域福祉の時代を迎え、地域で高齢者の見守り事業に積極的で、各町内会14ヶ所で生きがい対応型デイサービスをしているのが、宅老所的なことにつながって高齢者の居場所づくりの観点から整備を進めていく。

今後の検討課題である。

一般質問 質問事項の事後処理

答弁：進捗の確認を行う

丸山 真智子 議員

丸山 これまで質問した8・3運動、テイクテンプログラム、防災、竪坑櫓の活用、マイ箸の推進など検討するとの答弁後はどう対応してるのか。

資料も取り寄せ渡しているのもある。

誰が責任を持つのか道筋が見えない。

町長 言いっ放し受けっ放しになっていないかチェックをさせている。

ご指摘はご指摘として真摯に受けとめたい。

生かせ子ども権利条例

答弁：浸透を図っていく

丸山 子どもの権利条例ができても絵に書いた餅では何もならない。

いじめを受けた時に救済機関がある、そのことを浸透させていただきたい。

教育長 いじめも潜在している部分も多いのではないかと思う。

子ども達にも理解できる相談員がいること等を啓発していく。

その他の質問

○頑張る地方応援プログラム

▲11月18日子ども達による「子どもの権利フェスタ」

▲待ちから攻めへ！

牛房 良嗣 議員

予算90億 嫌われる町長たれ

答弁：危機感をもち取組む

牛房 大丈夫といわれる町の財政で基金の米びつはあと3年で底をつく。90億円の予算へ収めることが必須課題、対策は。

町長 生き残りをかけ行政の運営から経営へ転換し計画の完遂と人材の育成に取組む。

牛房 90億円の予算編成には痛みがともなうもの、心を鬼に、嫌われる町長になって行財政改革仕上げの2年を取組んで頂きたい。

新職員全員徴収業務を

答弁：検討する

牛房 毎年10億円の未納、7千万の不納欠損、厳しい環境下対策は。

町長 待ちの徴収から攻めの徴収へ検討中。

牛房 二つの提言をしたい。一つは徴収体制の強化現在の8人から増員へ。二つ目は新職員全員を1年間税務課へ配属徴収係の任に当たる。厳しい徴収業務で鍛えられ新しい役場職員の誕生。町長の勇気ある実行を。

少子化対策 プランの課題は何か

答弁：全庁的な取り組み

二宮 美津代 議員

二宮 志免町子ども未来プラン策定の中間年として、これまでの事業の成果を評価し、後期計画へ向け課題を出すべき。

総務課長 次世代育成行動計画策定の段階では、全庁的に担当職員で行ったが、進捗状況について推進協議会の設置も盛り込みながらその取り組みはなされていない。

これらを見直すとともに、実施する方向で進める。

二宮 すべての子どもたちの支援計画が立てられてはいるが、本当に必要とする人に必要な支援ができているのか。

町長 行財政改革の中で人員を削減し、事務量も増える中で取捨選択をしたり、めり張りをつけたいと思うが今の体制では非常に無理がある。この状況を解決することこそ合併のメリットである。

その他の質問

○協働体制への環境整備

その進捗状況

▲お父さんと一緒に参加したよ（平成の森公園）